

残された時間を悔いなく生きる この大切さを学びました

夫婦問題研究家 岡野あつこさん 69

夫婦にまつわる数々の修羅場を見てきた夫婦問題研究家の岡野あつこさん。わが身に降りかかった病「大腸がん」について、彼女は次のように語り始めた。
「私はこれまで病気ひとつしただけで、夫は次のごころと取り柄でした。」



手術前は栄養失調となり、プリンしか食べることができなかったという。

断は受けていましたし、がん検診も乳がん、子宮がんは2年に1回は受けていました。
そんな私が最初に異変を感じたのが、16年のこと。自宅でお腹が痛くなり、吐き気や下痢が止まらなくなり、約5時間七転八倒したのです。だけど、次の日になるとケロッと治る。

そして食事をしたら、また腹痛が走る。その繰り返しだったので、さすがにおかしいと思って、近くの病院を受診しまし

た（岡野さん・以下同）その病院でも詳しい原因はわからず、痛み止めと胃薬が処方されただけだった。「お薬をのんでも、一向に腹痛が改善しなかつたんです。そこで大きな病院の消化器系内科を受診し、検査を受けたのですが、診断されたのは「便秘」でした」

そこから便秘外来を受診。「都内でも有名な便秘外来のクリニックに行つて、食物繊維が豊富なサプリメントなどをすすめられるまま試してみました。腸内洗浄も8万円の回数券を使い、鍼、マッサージを受けたものの一向に改善しない。いま思えば、怖いこ

とをしていたと思います。本当は大腸がんだつたのに、腸内洗浄や食物繊維の過剰摂取などはよくないことを続けていたわけですから」

そう話す岡野さんだが、当時はそう重くは受け止めていなかった。「さすがにまったく症状がよくなるないので、腹痛が起つたある日、息子に相談して救急車を呼んで病院に連れて行つてもらつたんです。このときは入院セットも一緒に持っていました」

搬送された病院で、まず受けた診断名が「腸閉塞」でした。さらに内視鏡検査をしたところ、6・5cmの大腸がんが見つかったのです。先生からは、「5年前からできていて、あと2年放つておいたら

死んでいた」と言われてゾッとしました」

大腸がんと診断されたからは、インターネットで病気について調べたという。「女性に多いがんで、乳がんや子宮がんよりも患者数が多いことをそこで知りました。生存率も調べました。先生からは、死ぬ確率は30%つて言われていました。その当時は「70%も生きるのか」と、やや楽観的に考えていたんです」

54年生まれ。夫婦問題研究家、公認心理師、結婚・離婚カウンセラー。YouTube「岡野あつこチャンネル」は登録者数約4万人。豊富な経験によるカウンセリングを行う。



日本美容外科医師会認定医院

新宿に本院を置く全国26院



共立美容外科・歯科

しわたるみ

マイクロCFR
注入療法 29〜90万円
凝縮した自分の脂肪で目の周り、口もとのしわ、頬のくぼみを改善

48歳
皮膚を内側から持ち上げシワを伸ばし、たるみを改善

ヒアルロン酸リフト
1回・10万4千5百円

43歳
成長因子添加型 WPRP血小板療法「セルピバイブ」
26万4千円
注射で目の周りのしわ、まぶたのくぼみ、ほうれい線を改善

その他の診療科目
脂肪吸引/バストアップ/わきが/多汗症/二重/隆鼻/輪郭/歯列矯正/医療脱毛

皆様にとって“安心できるクリニック”それが共立美容外科・歯科です。

しわ、たるみの症状も人それぞれ。上記の他に、注射やレーザーなど様々なメニューをご用意。カウンセリングを通して、どの方法にするか選択できるようにしています。「重要なのは、多くの選択肢の中からあなたが選べる」ということです。

CEO兼総院長 久次米 秋人

※公的保険は適用されません。料金は標準的な費用(税込)になります。

- 相談・カウンセリング無料
- 年中無休・完全予約制
- 診療時間 10:00~19:00
- 各種カード利用可・分割可

0120-500-340

共立美容 検索



手術は4時間に及んだが、無事成功。切除した大腸は20cmだった。

「もしかしら、私の入院生活に密着するドキュメンタリー番組があるかもしれない(笑い)」と思ったりもしました。そして、何かやり残したことはないかと考えるようになり、手術が無事成功した後で考えたのは、「英語を習い直すこと」だったんです。

私、高校時代に英検2級を取ったんですが、その後、大学の英文科の受験に失敗して以来、ずっと英語がコンプレックスだったんです。だからもう一度、英語を習い直そうと、同じく英語が苦手な友人を誘って、いろんな英会話教室に行きました」

1つの英語教室に120万円を注ぎ込んだこともあった。「高い授業料を払えば話せるようになるって思っていたんです(笑い)。でも、あまり効果はありませんでした。その後5回、オンラインでフ

イリピン人の先生から英語のレッスンを受け、英会話で有名な先生のところでもレッスンを受けました。なぜ、そこまで情熱を持てたかという、当時、国際結婚したい彼氏がいたからです(笑い)。

彼とは結婚までには至りませんでした。が、英会話を習って困りしは身につきました。カタコト英語でも相手とは会話できるし、何よりも伝えたいという気持ちがあればコミュニケーションは取れるんです。街で知り合った外国人とも何度かデートしたことがありますよ」

窮地を救ってくれた 息子の言葉

終始明るく話す岡野さんが、トラブルも尽きなかった。「私、がん保険に入っていて、がんで手術、入院したら90万円下りる保険契約をして

手術後、長男(36才・左)と千葉県鴨川に親子水いらすの旅行に出かけ、幸せを感じたという。

いたんです。これは私が判明する前の話ですが、保険会社の担当者、「先進医療保険がついているものに変わりたい」と相談して、よく確認もせずにプラン変更してはんこを押したんですが、肝心のがん保険のプランを解約して、せっかく



「命の大切さ、生きている使命を果たすため曹洞宗で得度をしました」(岡野さん)

これまでかけてきたのに900万円の保険金が下りなかつたんです！これはかなりショックでしたね」

このとき、当時28才だった息子の言葉が救いとなった。「息子は私のこと、お前って呼ぶんですけど、「お前、900万円よりも命が助かってよかったじゃん。お金よりも命だよ」って言われて、ハツとしました。

私は会社も経営しているし、それまでの価値観は健康よりもお金だったんです。何をやるにもお金が必要ですし、大事ですからね。でも、病気を患って、命よりも大事なものであるんだらうか？と心から思い、900万円はキツバリと諦められました」

病気の際も、息子の存在が支えとなった。「息子は独立していて、普段は家にも寄り付かないんですが、入院中は毎日お見舞いに来てくれました。だけど、私を来てくださるかたもたくさん

いて、なかなか息子と2人きりの時間が過ごせなかったんです。

けがをして再び考えた 死に対する考え方

私にとつて息子はたつたひとりの肉親。そのとき、心底息子がいてくれてよかったなと思いましたが、退院したら2人で旅行に行こうと約束しました。晴れて退院後は、息子が成人して初めて2人きりで千葉県鴨川に行きました」

大腸がん判明から9年。再発もなく、以前と変わらない日常を過ごしている岡野さんを、再び、アクシデントが襲った。「この取材を受ける数日前にけがをしてしまったんです。ちゃんと先祖供養をしておこうと、お墓参りに行った帰りに転倒して打撲。いま、杖がないと歩けないんです」

この出来事が彼女の死生観に大きく影響を及ぼした。「がんが判明したときは、まだ60才になったばかりで、『死』なんてまったく考えなかつたんです。自分は運がいいと思

っていましたし、保険が下りなかつたことは悔しかったけれど、結果的には息子との絆も深まった。



英語を習っているフィリピン人の講師宅を訪れ、熱烈な歓迎を受けた。

英語もリベンジできて、何より手術して生きられる確率が70%もある！って前向きに捉えていたんです。でも70才を前にして、けがをして感じたことは、果たしてあの頃と同じように考えられるかなということ。いまなら「30%も死ぬ確率がある」と考えただろうと思っ

たんです。けがをしてこんなふうになるんだから、いま病気になるたら、さぞかしショックだろうと思います。だからいつ死んでもいいように生前整理をはじめました。

自分が病氣やけがをしたときどう思うかは、そのときの年齢や環境、精神状態によっても変わると思います。だからこそ、いまの自分を肯定し、悔いなく生きること。それがとても大事だと、いまは実感しています」

取材・文/ 藤屋友美乃

次号の発売は11月30日(木)です!